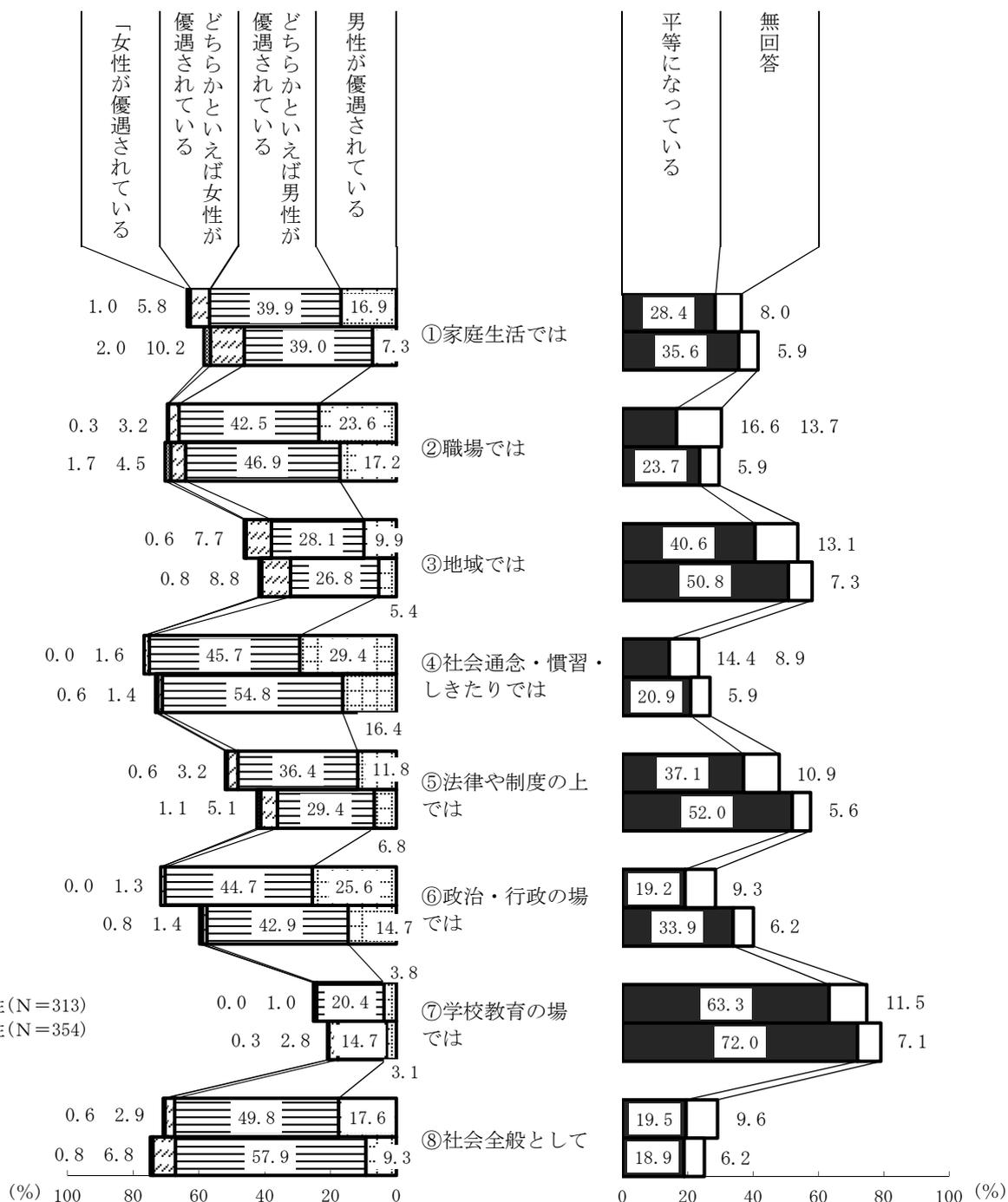


4. 男女共同参画社会について

問 30 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
 (〇は①～⑧のそれぞれで1つ)

図 4-1 男女の地位の平等感



■女性の方が「社会全般として」をのぞいた分野において平等感が低い

「平等になっている」が50%を超えているのは、「⑦学校教育の場では」(女性 63.3%・男性 72.0%)と「⑤法律や制度の上で」(男性 52.0%)、「③地域では」(男性 50.8%)である。

女性では、「④社会通念・慣習・しきたりでは」(75.1%)、「⑥政治・行政の場では」(70.3%)、

「⑧社会全体として」(67.4%)、「②職場では」(66.1%)で、『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が高い。

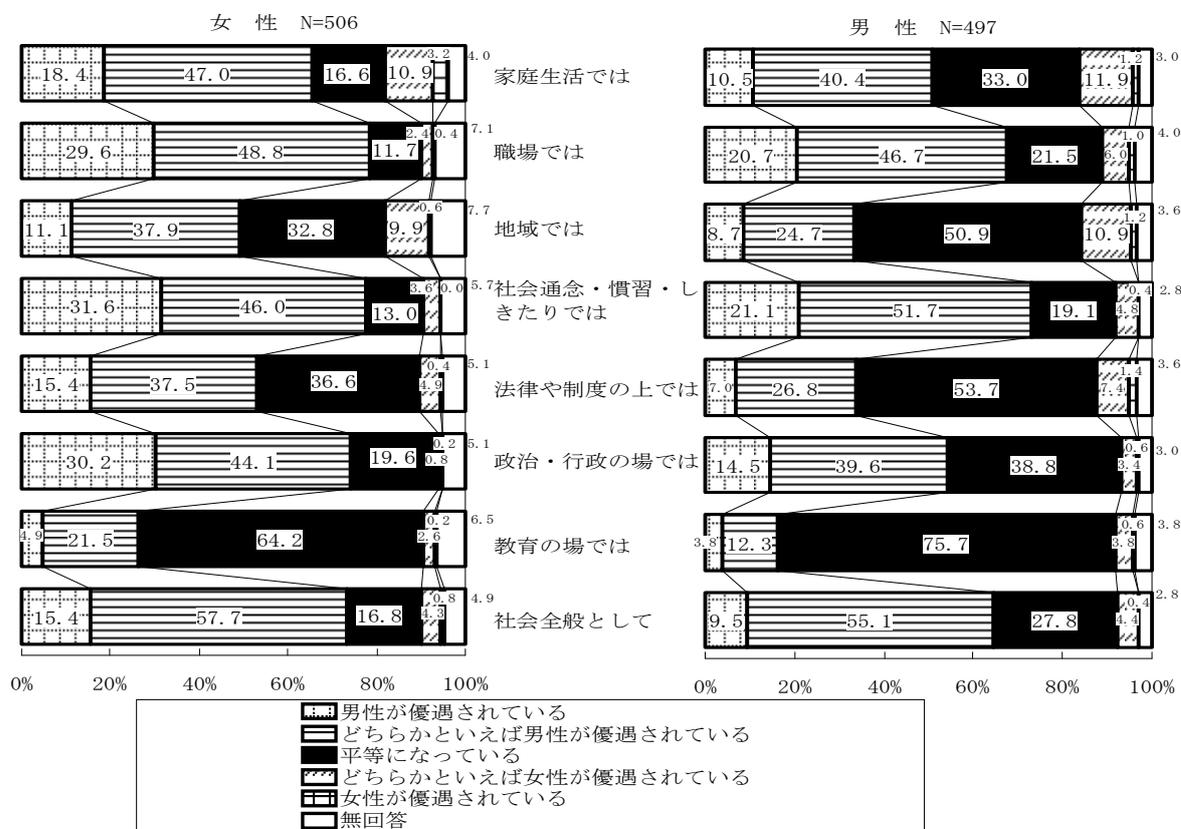
男性では、「④社会通念・慣習・しきたりでは」(71.2%)、「⑧社会全体として」(67.2%)、「②職場では」(64.1%)で『男性優遇』が高い。

平成21年度調査の平等感と比較すると、女性では、「家庭生活では」で11.8ポイント、「地域では」で7.8ポイント「平等になっている」が高くなっている。

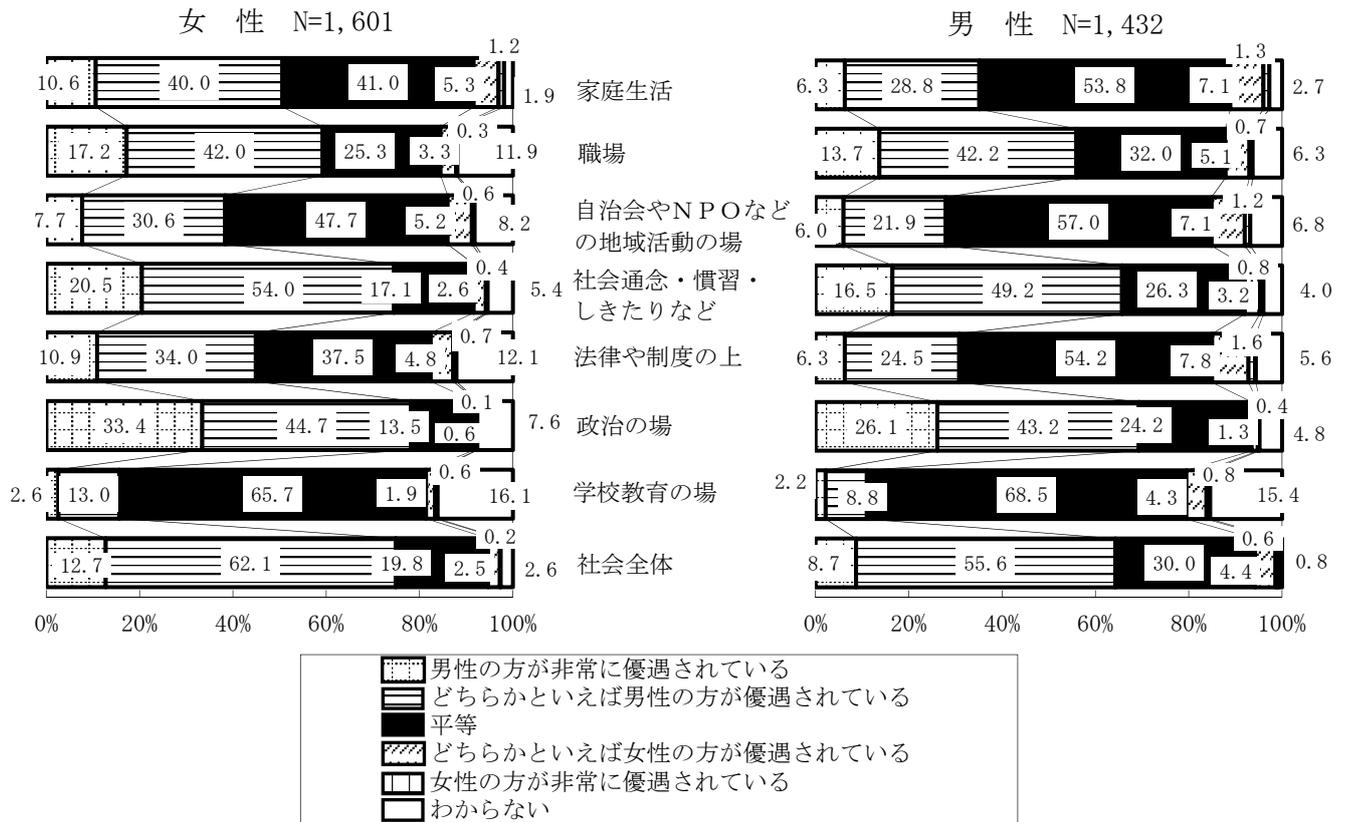
一方、男性では、「社会全般として」で「平等になっている」が8.9ポイント低くなっている。

国の調査と比較すると、「政治・行政の場」では男女ともに、そして「学校教育の場」では男性の「平等になっている」が高いが、それ以外は低くなっている。

【比較】図4-2 男女の地位の平等感（平成21年度調査）



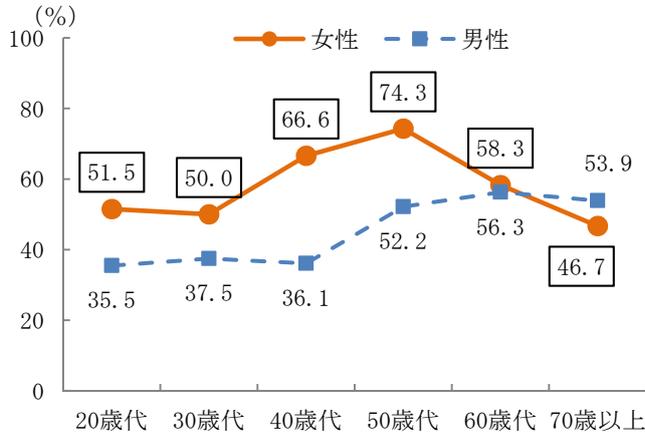
【比較】図4-3 男女の地位の平等感（国の調査）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年

【性別・年代別】

図 4-4 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 (「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)
 <家庭生活では>

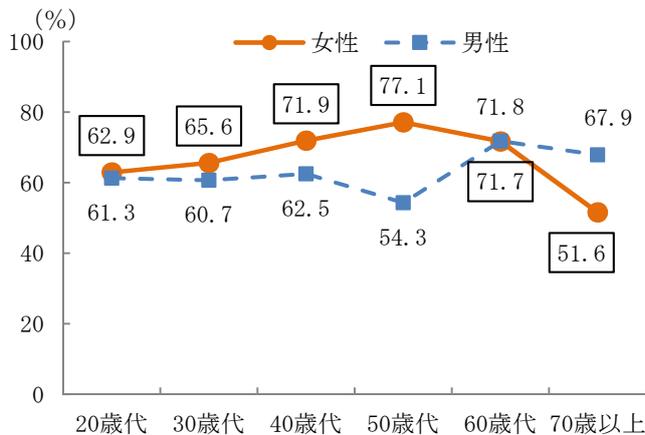


女性では、50歳代が最も高く、70歳以上が最も低い。男性では、40歳代以下は30%台だが、50歳代以上は50%を超えている。

50歳代までは各年代とも、女性の方が男性より高いが、60歳代はほぼ同率で、70歳以上は男性の方が高くなっている。

また、20～50歳代では男女の開きが大きい。

図 4-5 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <職場では>



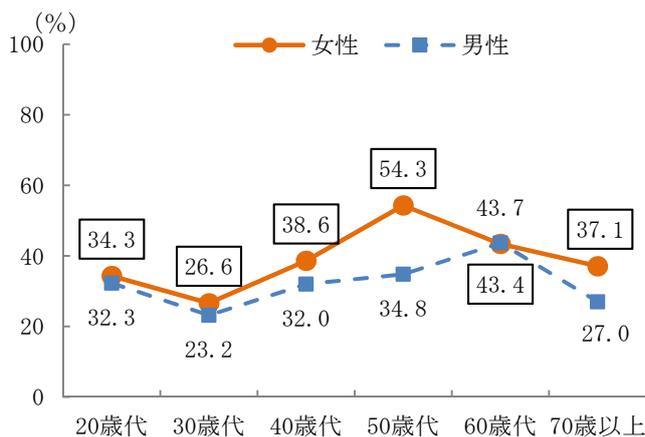
女性では、50歳代が最も高く、70歳以上が最も低い。

男性では、60歳代が最も高く、50歳代が最も低い。

50歳代までは各年代とも、女性の方が男性より高いが、60歳代はほぼ同率で、70歳以上は男性の方が高くなっている。

50歳代では男女の開きが大きい。

図 4-6 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <地域では>

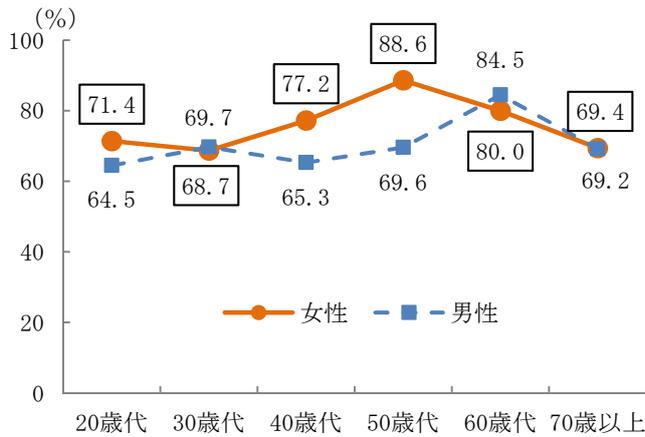


女性では、50歳代が最も高く、30歳代は最も低く20%台である。

男性では、すべての年代で50%以下であり、30歳代と70歳以上は20%台である。

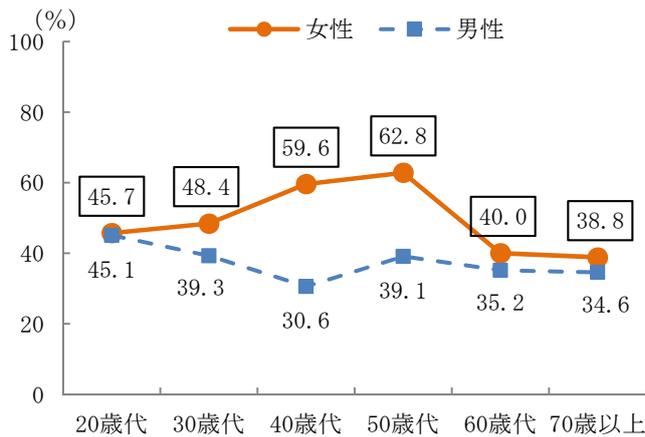
50歳代では男女の開きが大きい。

図 4-7 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <社会通念・慣習・しきたりでは>



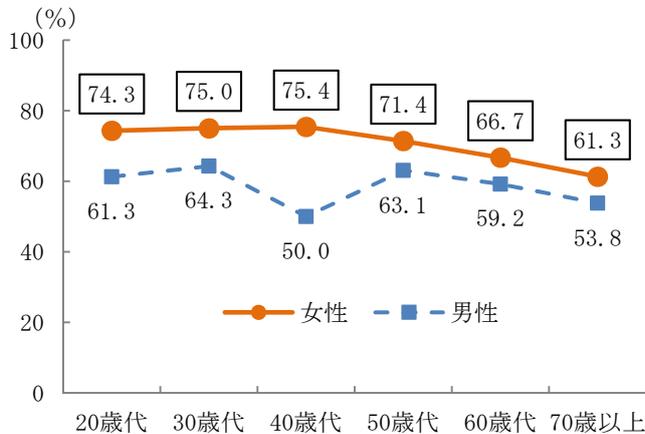
女性では、50 歳代で 88.6%と最も高く、30 歳代で 68.7%と最も低い。
 男性では 60 歳代が 84.5%と高く、他の年代は 60%台である。
 50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-8 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <法律や制度の上では>



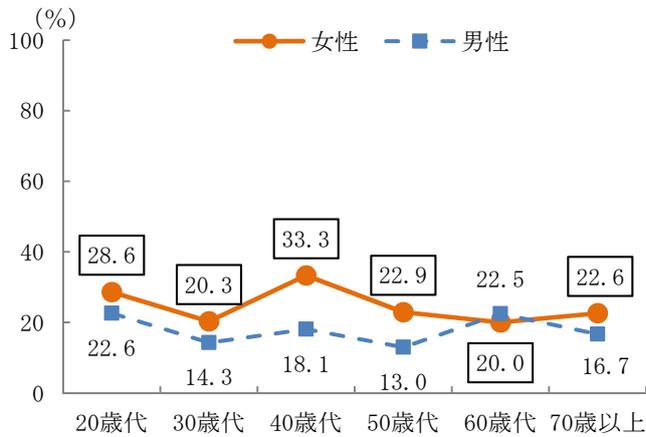
女性では、50 歳代が 62.8%、40 歳代が 59.6%と他の年代より高く、60 歳代・70 歳以上ではやや低い。
 男性では、20 歳代が 45.1%で最も高く、他の年代は 30%台である。
 40、50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-9 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <政治・行政の場では>



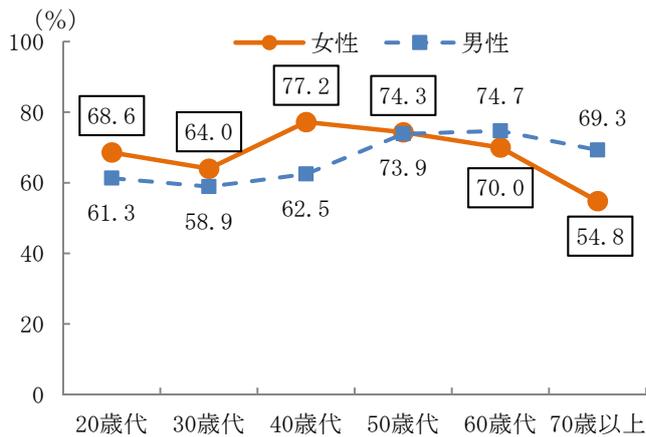
女性では、20~50 歳代は 70%台、60 歳代・70 歳以上は 60%台である。
 男性では、40 歳代、70 歳以上でやや低く、その他の年代は 60%前後である。
 40 歳代では男女の開きが大きく、すべての年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4-10 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <学校教育の場では>



女性では、40 歳代で 33.3%と最も高く、60 歳代で 20.0%と最も低い。
 男性では、20 歳代で 22.6%と最も高く、50 歳代で 13.0%と最も低い。
 40 歳代では男女の開きがある。

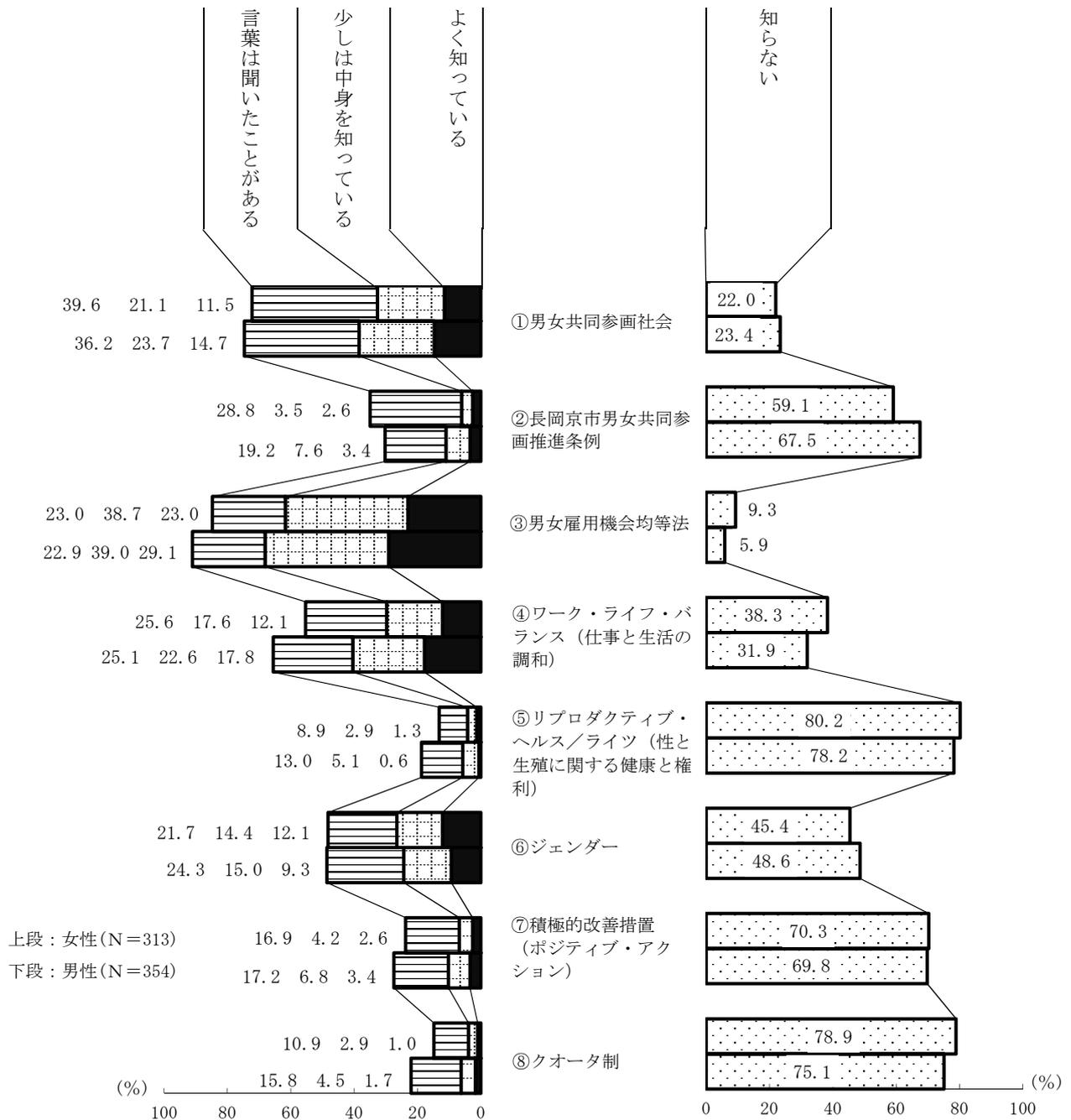
図 4-11 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <社会全般として>



女性では、40 歳代で 77.2%と最も高く、70 歳以上で 54.8%と最も低い。
 男性では、50、60 歳代で高く、30 歳代で最も低い。
 50 歳代までは女性の方が男性よりやや高いが、60 歳代以上は男性の方が高くなっている。

問 31 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
 (〇は①～⑧のそれぞれで1つ)

図 4-12 法律や言葉などの認知度



※無回答は省略

■「男女共同参画社会」の認知度は、女性は72.2%、男性は74.6%

男女ともに第1位は「③男女雇用機会均等法」で、『知っている』*は、女性84.7%・男性91.0%である。次いで、2位「①男女共同参画社会」は女性72.2%・男性74.6%、3位は「④ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」で女性55.3%・男性65.5%である。

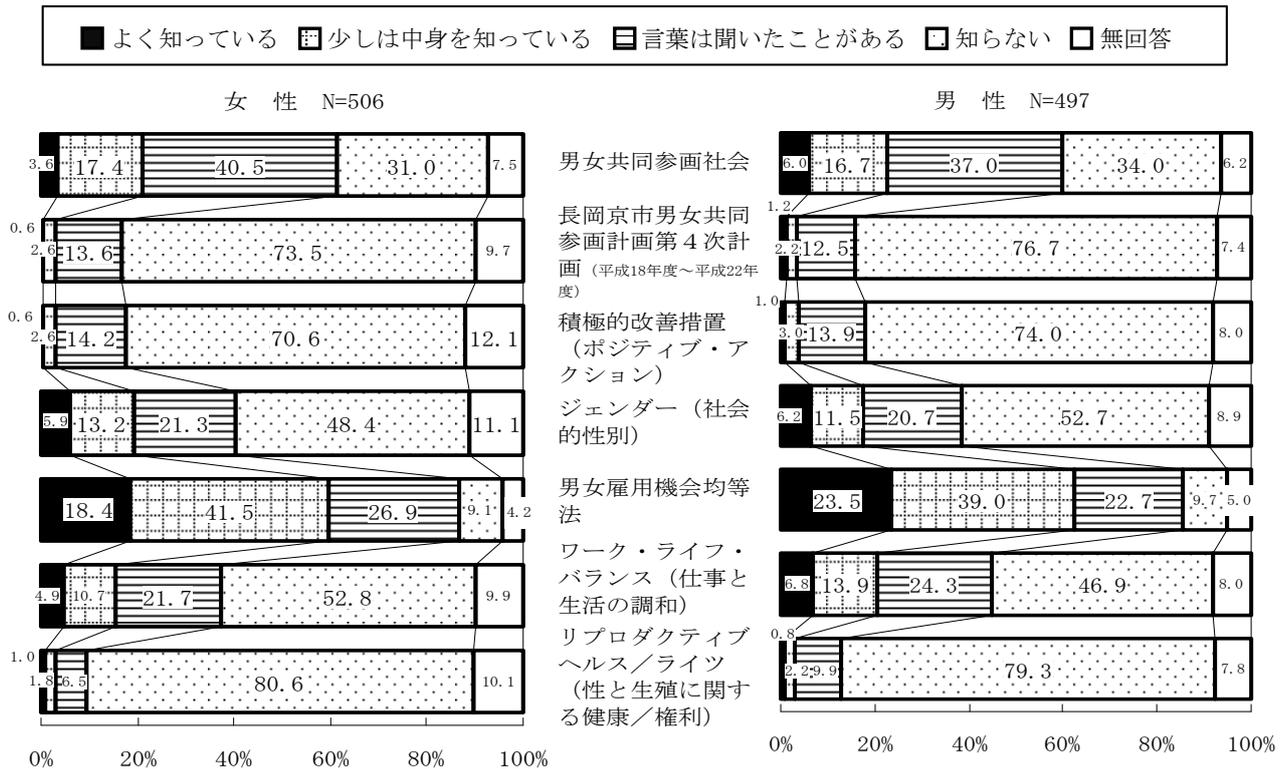
「長岡京市男女共同参画推進条例」については、「知らない」が女性59.1%、男性67.5%である。『知っている』は、「長岡京市男女共同参画推進条例」を除いて、どの言葉も男性の方が女性をや

や上回っている。

平成 21 年度調査と比較すると、男女ともに「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「ジェンダー」「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」は「よく知っている」が高くなっている。

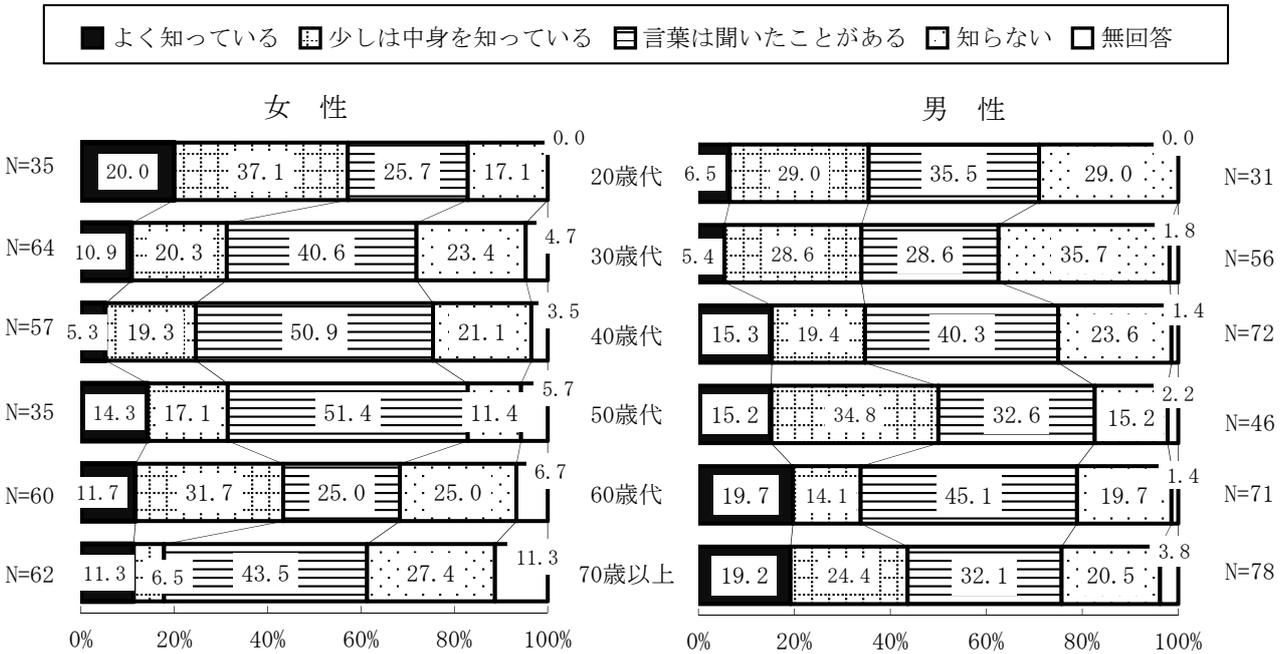
*『知っている』とは、「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせた割合

【比較】図 4-13 法律や言葉などの認知度（平成 21 年度調査）



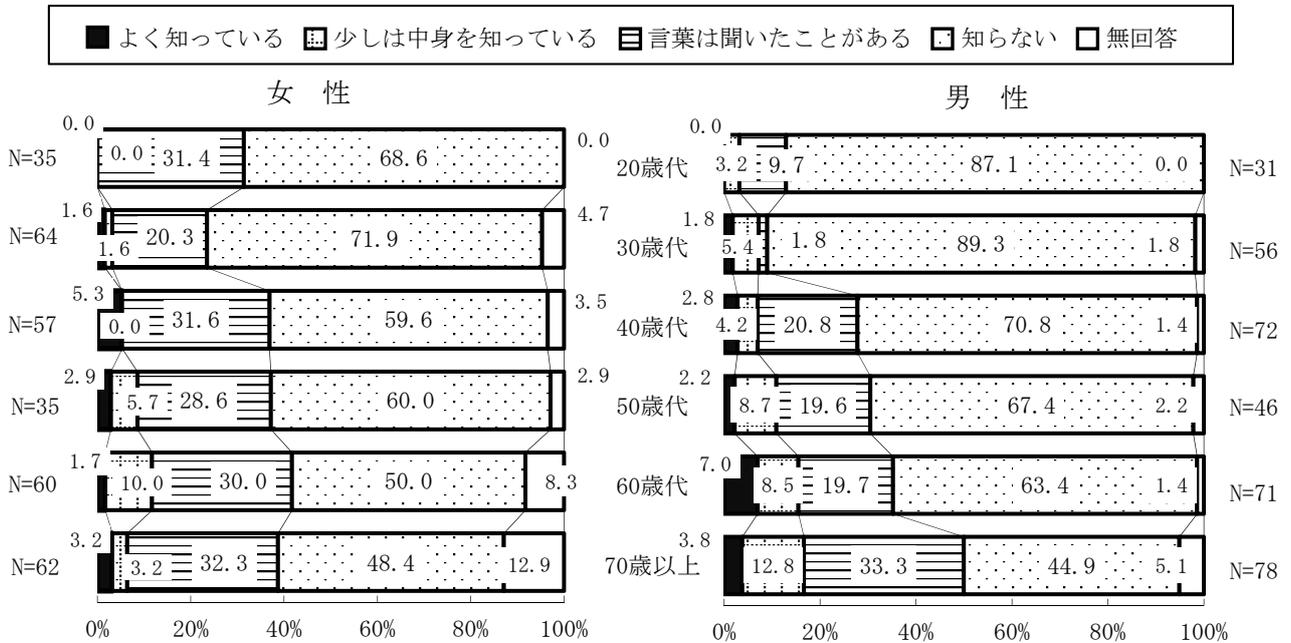
【性別・年代別】

図 4-14 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「男女共同参画社会」



女性では、20歳代と50歳代で『知っている』がやや高く、20歳代は「よく知っている」と「少しは中身を知っている」を合わせると57.1%である。男性では、50歳代で『知っている』が最も高く、「よく知っている」と「少しは中身を知っている」を合わせると50.0%である。60歳代と70歳以上では「よく知っている」が約20%で他の年代より高い。

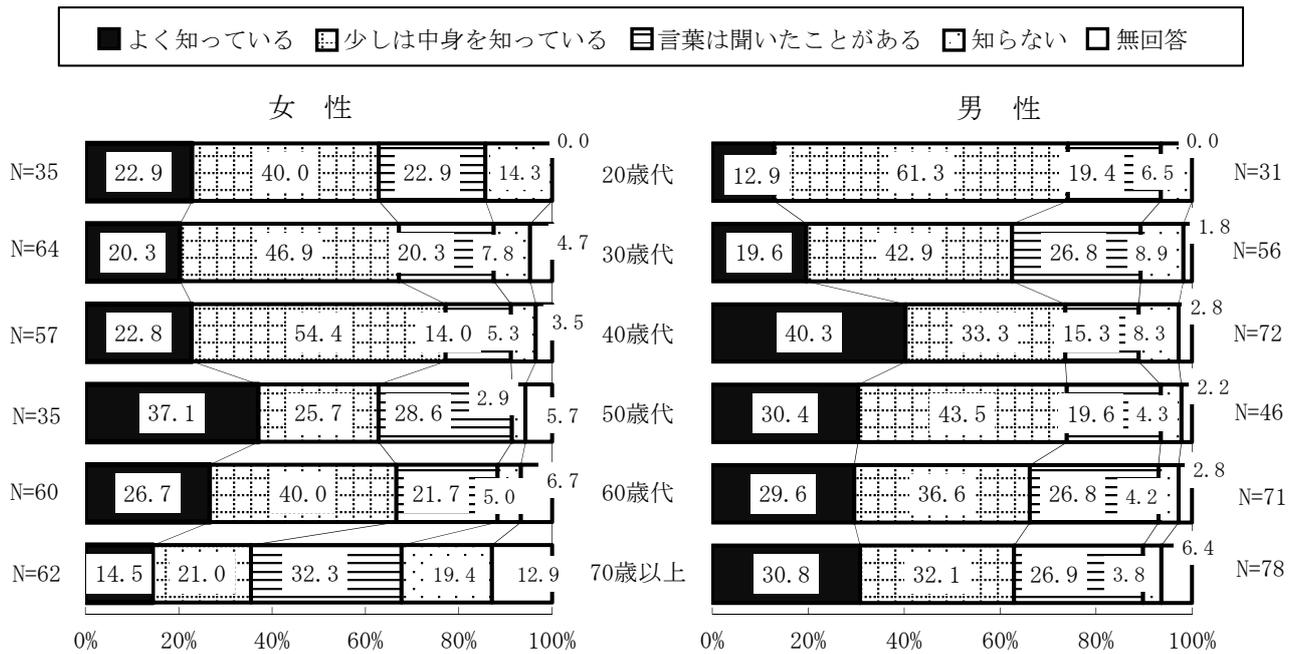
図 4-15 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「長岡京市男女共同参画推進条例」



女性では、20、30歳代は「知らない」が70%前後と高い。60歳代で『知っている』が年代の中で最も高いが41.7%である。

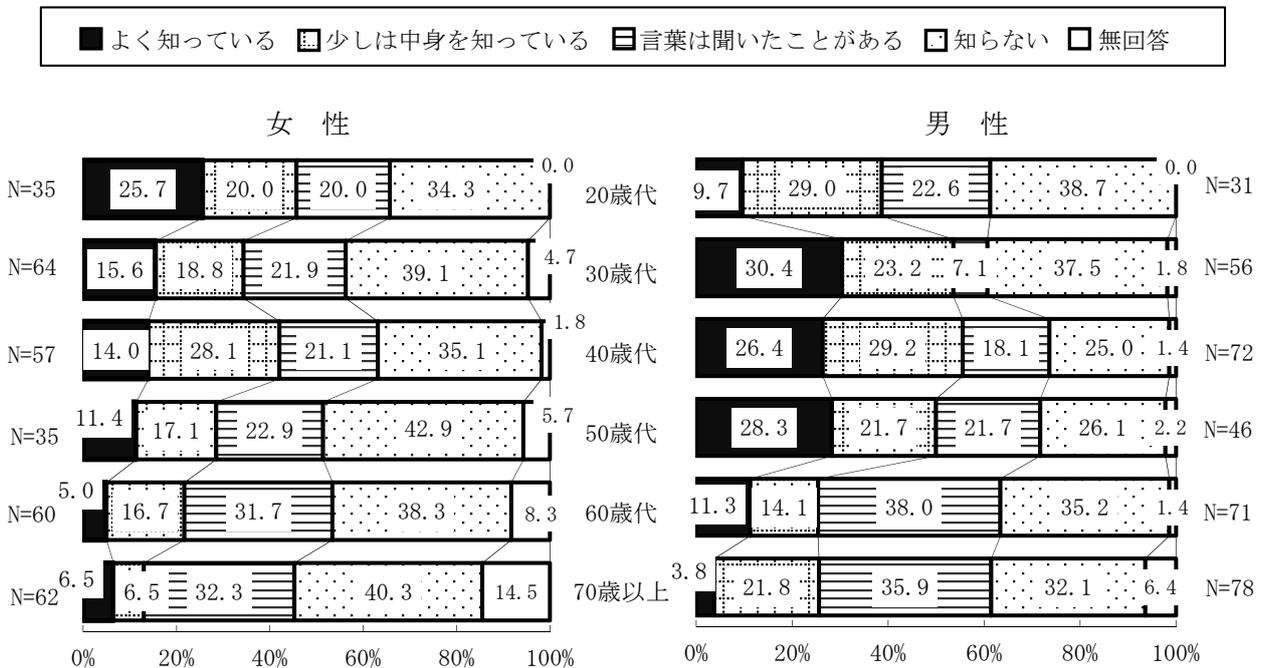
男性では、20、30歳代は「知らない」が90%弱と高い。70歳以上で『知っている』が最も高く49.9%である。

図 4-16 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「男女雇用機会均等法」



女性では、『知っている』は、60歳代以下の年代では90%前後で、50歳代では「よく知っている」が37.1%と高い。男性では、全年代で認知度が90%前後を占め、40歳代では「よく知っている」が40.3%と最も高い。

図 4-17 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」

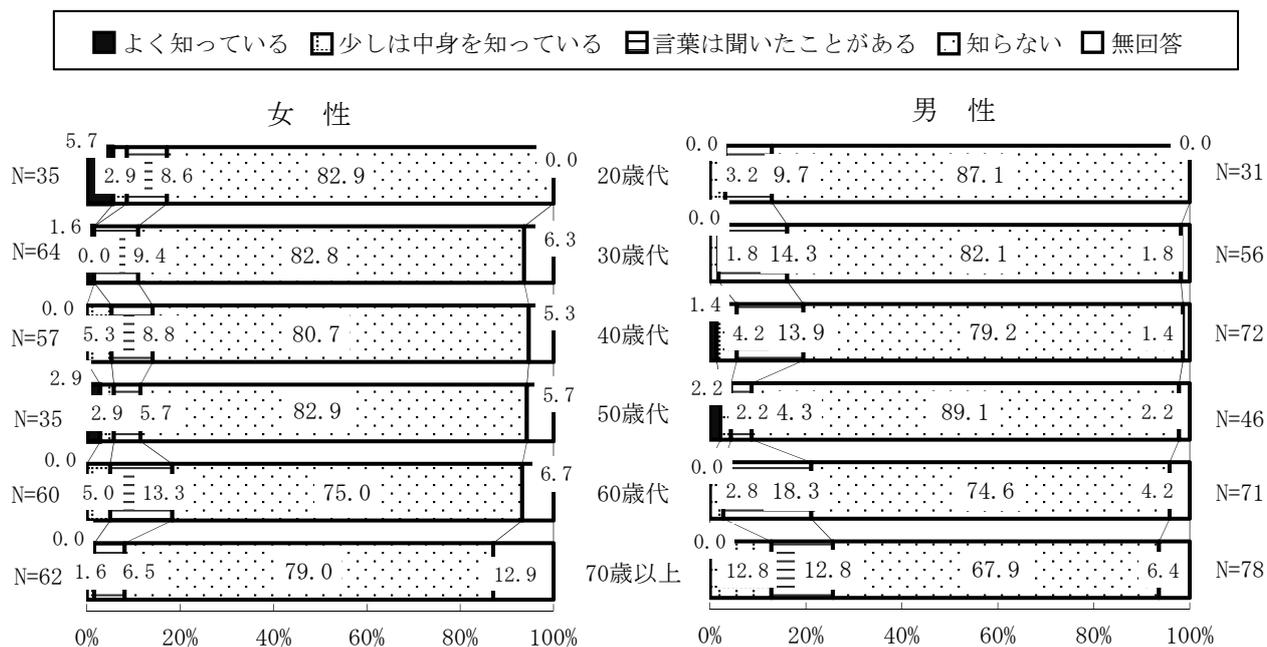


女性では、20歳代と40歳代で『知っている』が高く、特に20歳代では「よく知っている」が25.7%と高い。

男性では、40、50歳代で『知っている』が高い。また、30、40、50歳代では「よく知っている」が高く、30歳代は30.4%である。

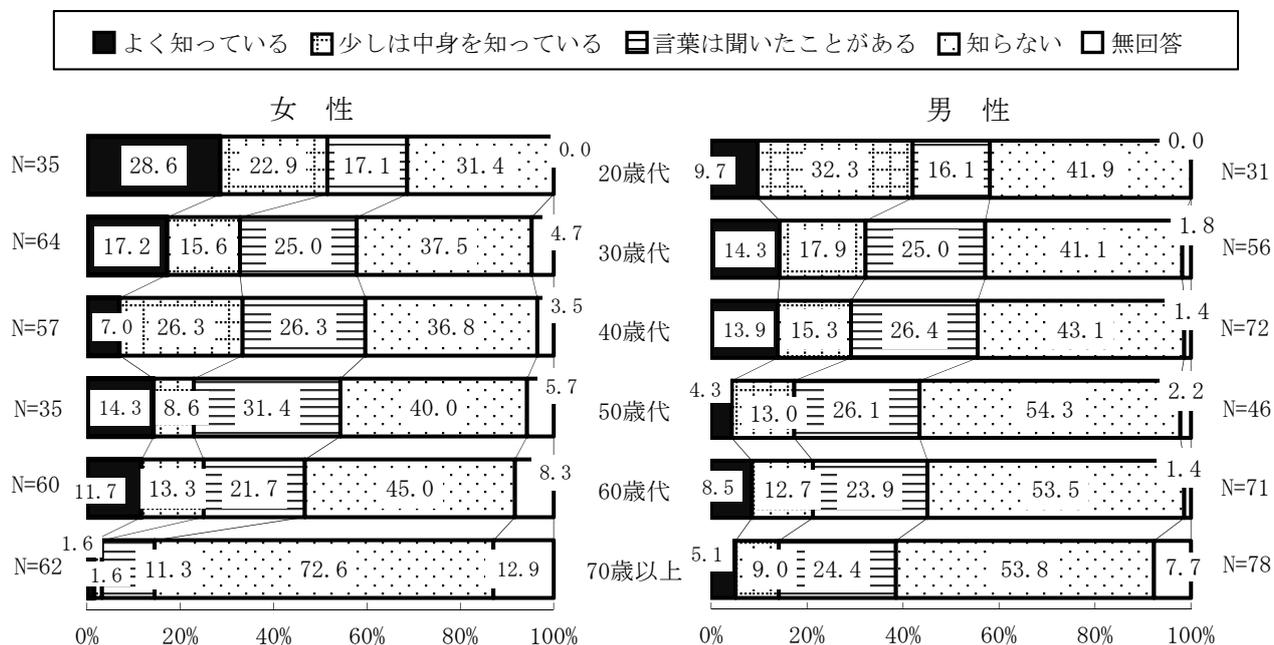
図 4-18 性別・年代別 法律や言葉などの認知度

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」



女性の60歳代、男性の60歳代と70歳以上で『知っている』がやや高い。

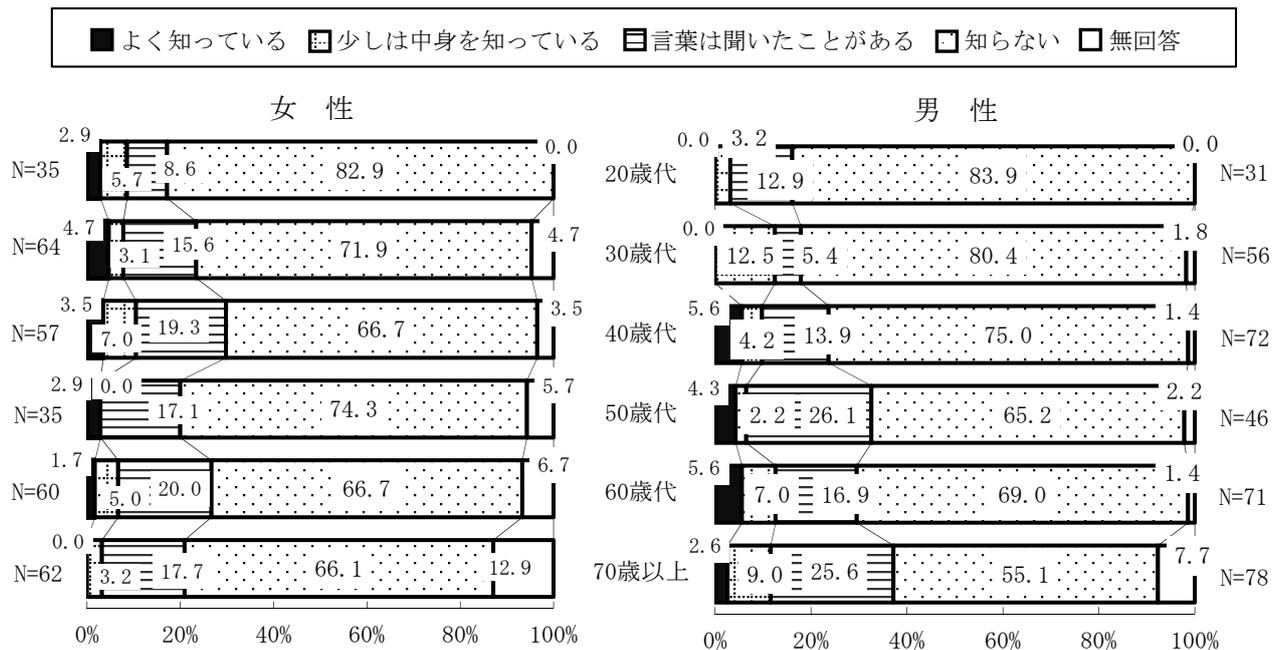
図 4-19 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「ジェンダー」



男女とも、年代が低いほど認知度が高い傾向で、『知っている』は、20歳代では、女性 68.6%・男性 58.1%である。

女性の70歳以上では「知らない」が72.6%と高い。

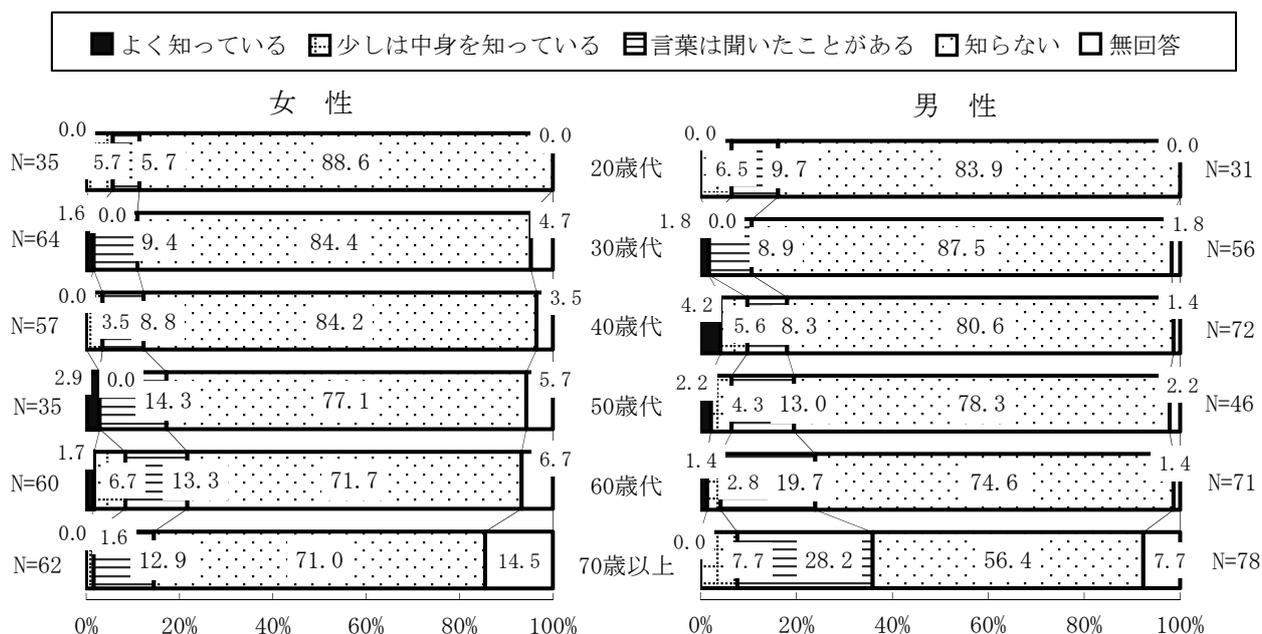
図 4-20 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」



女性では、20歳代では「知らない」が82.9%と他の年代より高い。40歳代では『知っている』が29.8%で、やや高い。

男性では、20、30歳代は「知らない」が80%を超えている。年代が高いほど『知っている』が高い傾向である。

図 4-21 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「クオータ制」

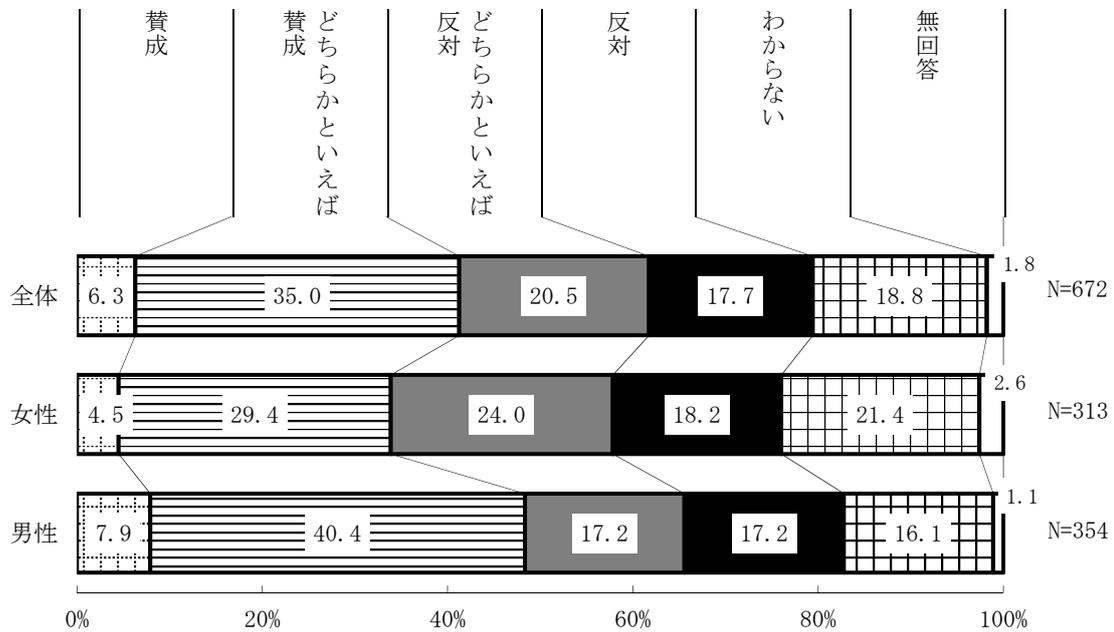


男女とも、40歳代以下で「知らない」が高く80%を超えている。

男性では、70歳以上で認知度が35.9%で、年代の中で最も高い。

問 32 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどう思いますか。
 (○は1つ)

図 4-22 固定的性別役割分担意識



■女性は反対グループ、男性は賛成グループが上回る

女性では、固定的な性別役割分担意識に『賛成グループ』*1が33.9%、『反対グループ』*2が42.2%と、『反対グループ』が『賛成グループ』を8.3ポイント上回っている。

一方、男性では、『賛成グループ』48.3%、『反対グループ』34.4%で、『賛成グループ』が13.9ポイント上回っている。ただし、「わからない」が女性21.4%・男性16.1%である。

平成21年度調査と比較すると、男女ともに、反対グループの割合はほとんど変化がみられないが、賛成グループの割合は低くなっており、女性は10.1ポイント、男性は4.2ポイント減っている。

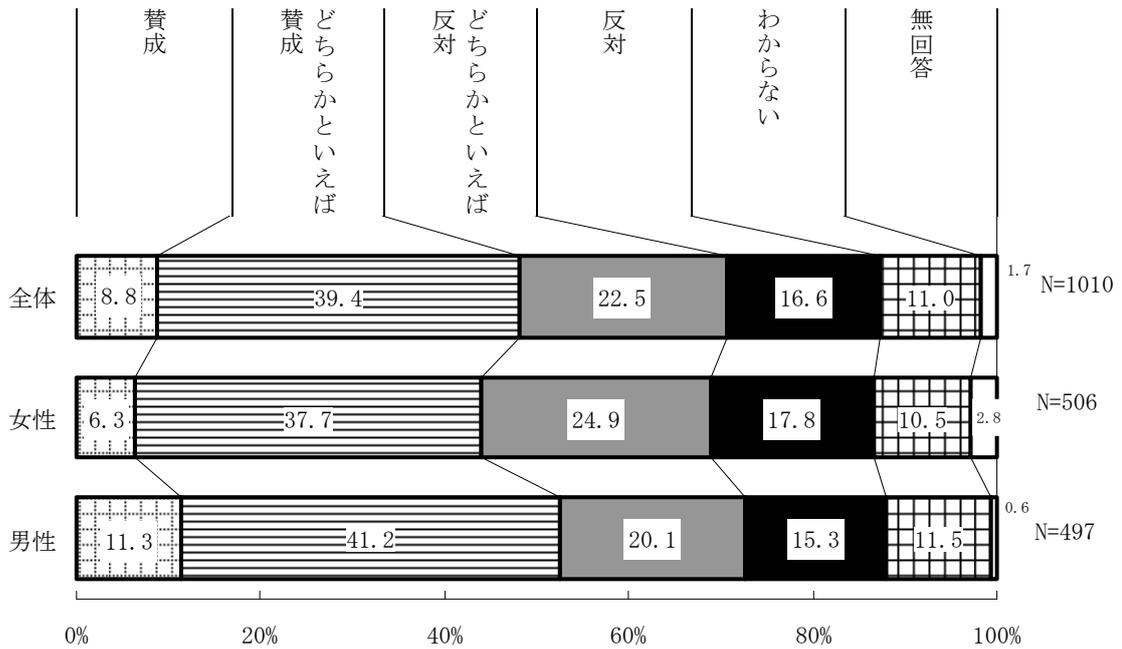
国の調査と比較すると、女性は、『賛成グループ』が9.3ポイント、『反対グループ』が9.4ポイント低い。男性は、『賛成グループ』が1.8ポイント多く、『反対グループ』が12.1ポイント低い。

国の調査結果と比べて、本調査結果の特徴は男女とも「わからない」の回答割合が高いことである。平成21年度調査と比べても「わからない」の割合が高くなっている。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えに対して、明確に賛成・反対と態度表明をしない層が増えているということは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えが既定のものであるという認識が揺らいでいることを示していると推察される。

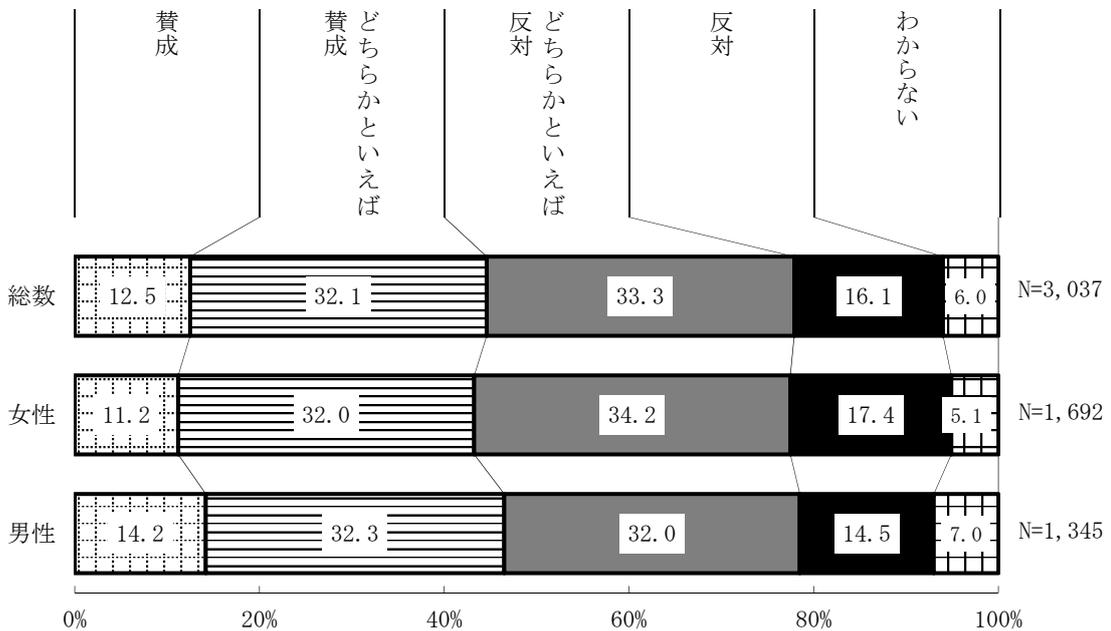
*1『賛成グループ』は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計

*2『反対グループ』は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

【比較】図 4-23 固定的性別役割分担意識（平成 21 年度調査）



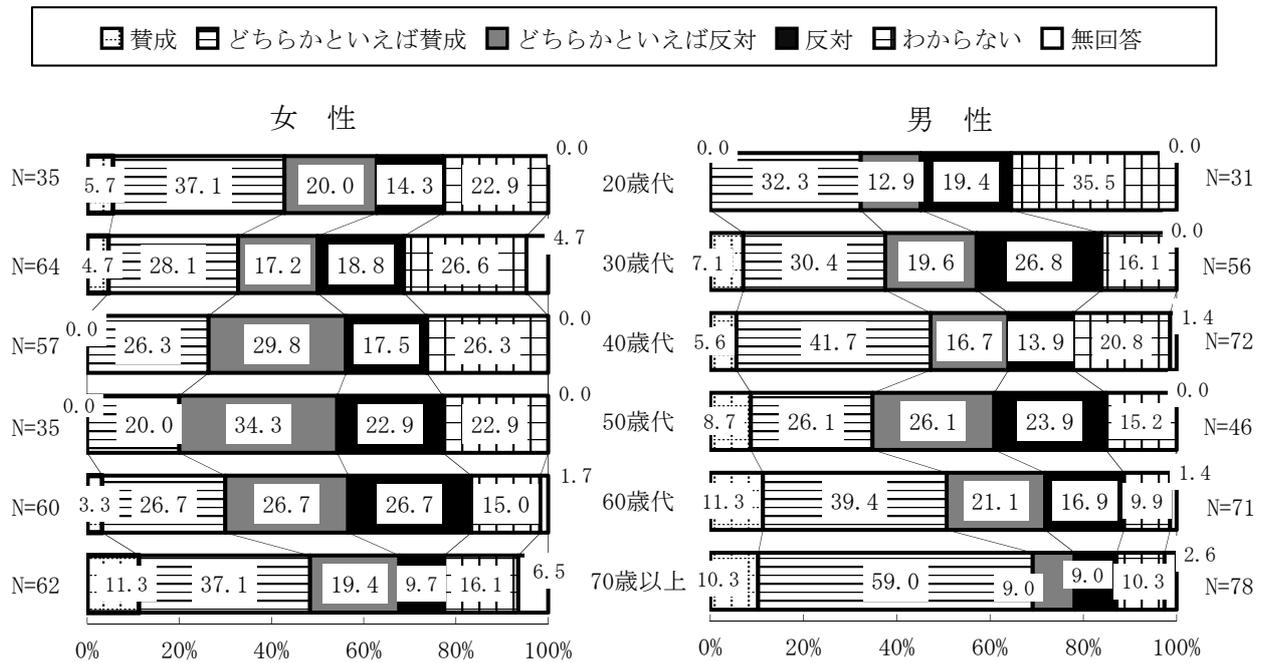
【比較】図 4-24 固定的性別役割分担意識（国の調査）



資料：内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年）

【性別・年代別】

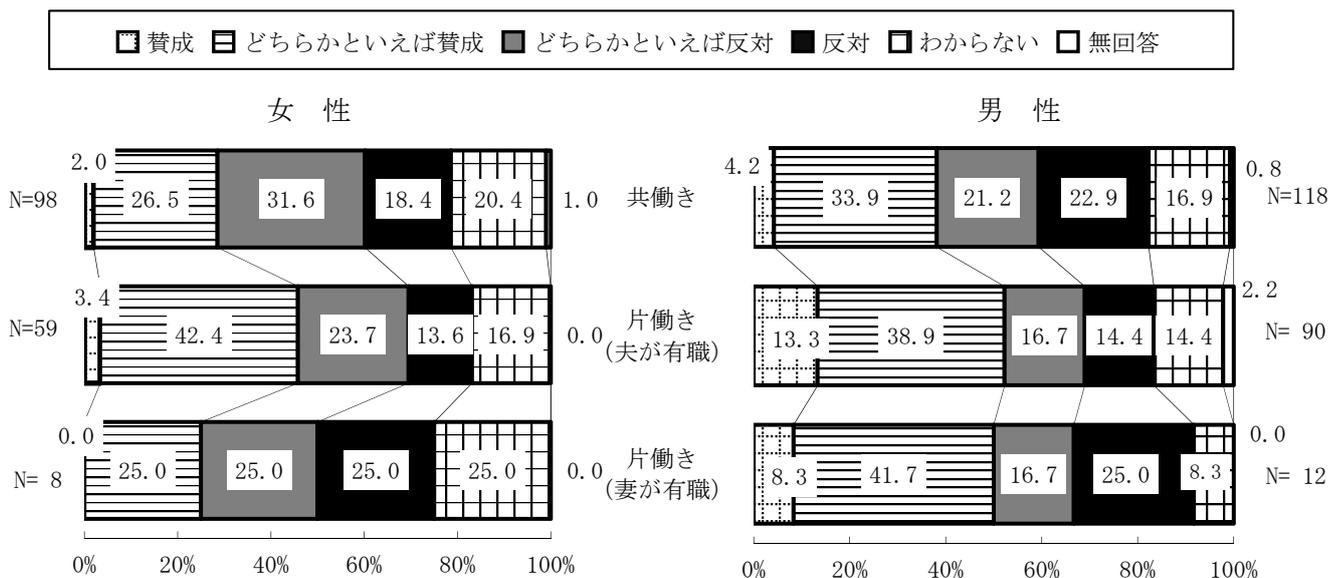
図 4-25 性別・年代別 固定的性別役割分担意識



年代別で見ると、女性では、50歳代と60歳代で反対グループが高く50%を超えている。一方、20歳代と70歳以上では賛成グループが反対グループを上回る。男性では、50歳代で反対グループが高く50.0%。一方、60歳代と70歳以上では賛成グループが高く50%を超えており、70歳以上は約70%にのぼる。

【性別・共働き／片働き別】

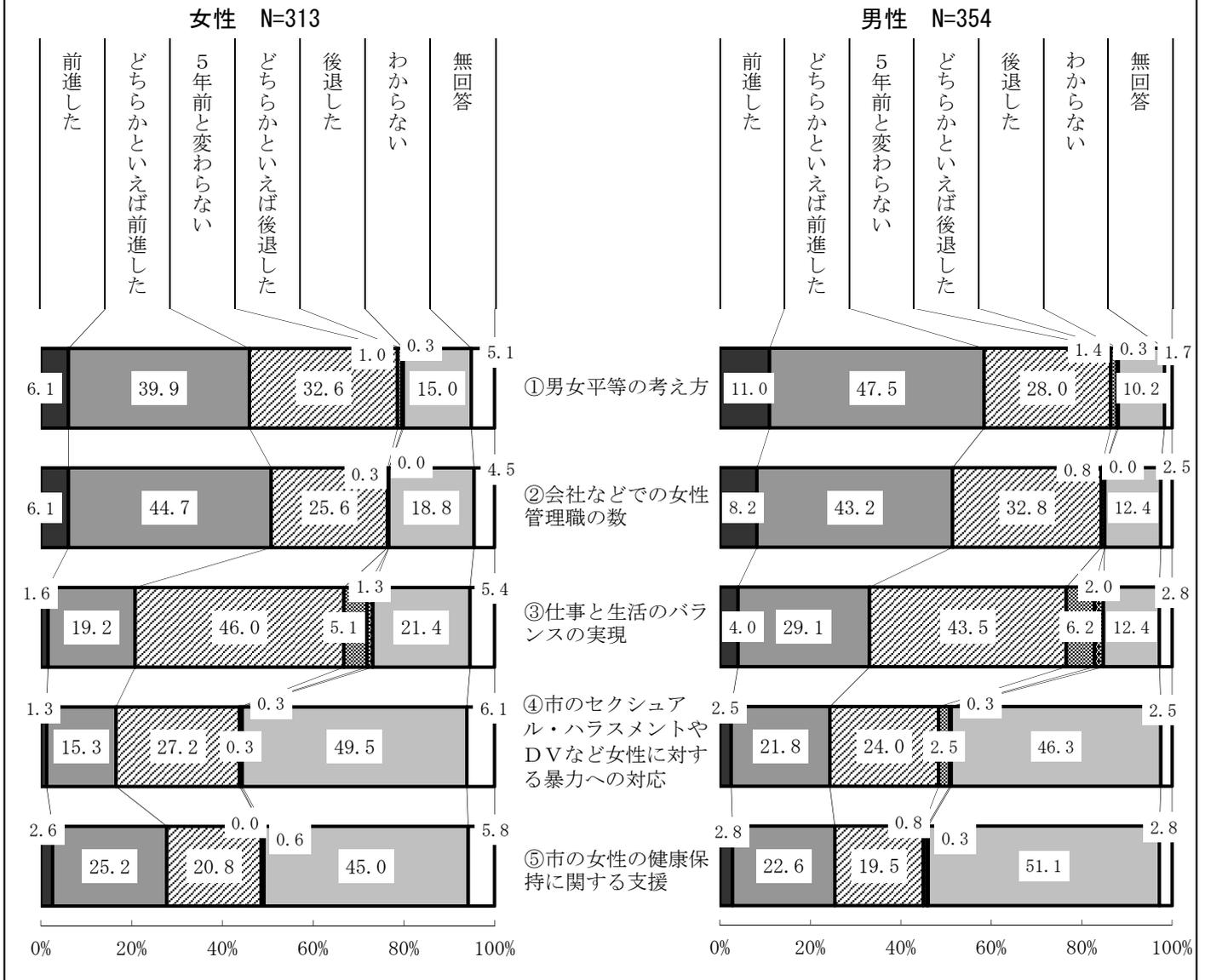
図 4-26 性別・共働き／片働き別 固定的性別役割分担意識



共働き／片働き別で見ると、男女とも、共働きでは反対グループが賛成グループを上回り、女性は21.5ポイント、男性は6ポイント高くなっている。一方、片働き（夫が有職）では、賛成グループの方が高く、女性は45.8%、男性は52.2%である。

問 33 あなたはこの5年間で、以下のことはどの程度進んだと思いますか。
 (〇は①～⑤のそれぞれで1つ)

図 4-27 男女共同参画の進み具合



■男女の40%以上が「仕事と生活のバランスの実現」は進んでいないと回答

「①男女平等の考え方」では、『前進』（「前進した」＋「どちらかといえば前進した」）の割合が女性46.0%・男性58.5%で、「5年前と変わらない」は女性32.6%・男性28.0%である。

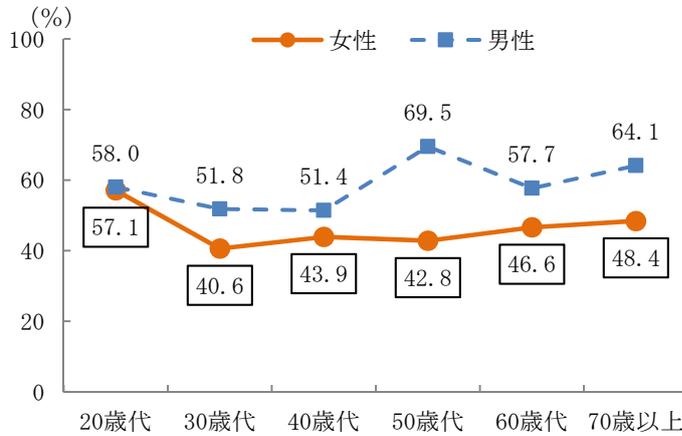
「②会社などでの女性管理職の数」は、『前進』の割合が女性50.8%・男性51.4%で、「5年前と変わらない」は女性25.6%・男性32.8%である。

「③仕事と生活のバランスの実現」は、『前進』の割合が女性20.8%・男性33.1%で、「5年前と変わらない」が女性46.0%・男性43.5%で、変わらないとする割合が高い。

「④市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応」と「⑤市の女性の健康保持に関する支援」は「わからない」が約半数を占めている。

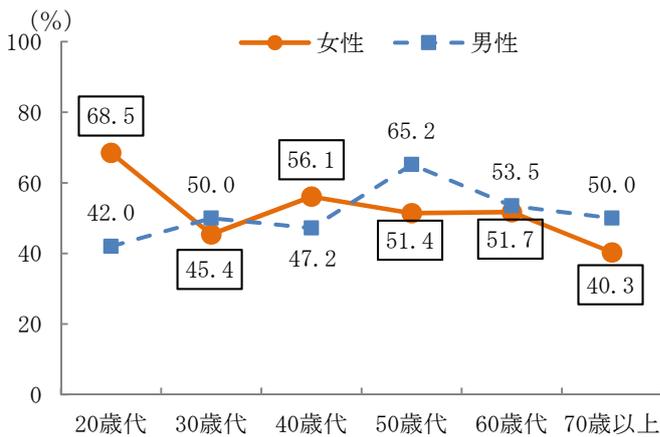
【性別・年代別】

図 4-28 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 (「前進した」+「どちらかといえば前進した」)
 <男女平等の考え方>



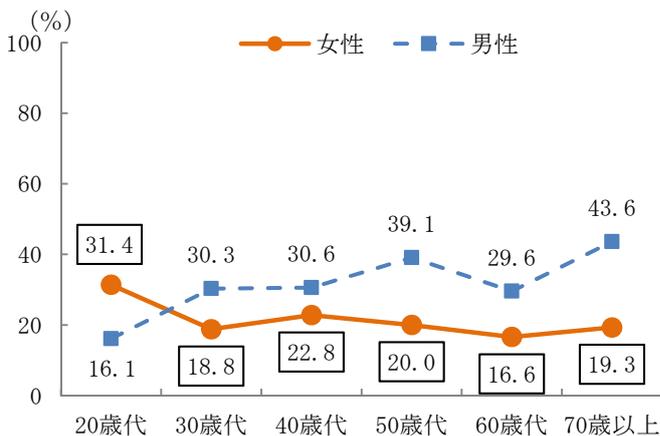
女性では、20歳代で最も高く57.1%で、他の年代は40%台である。男性では、50歳代で最も高い。すべての年代で女性が男性を下回っている。

図 4-29 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <会社などでの女性管理職の数>



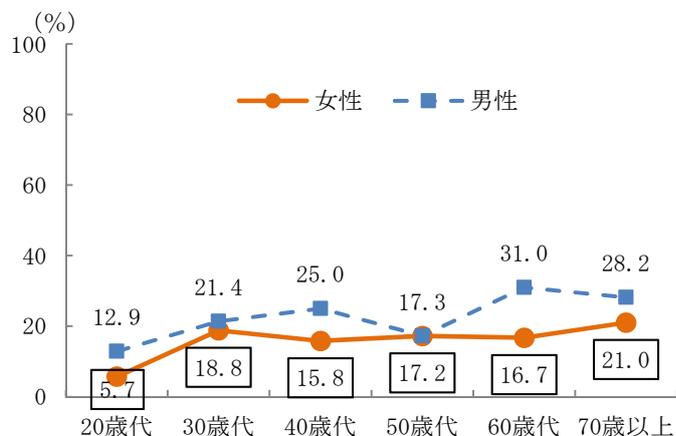
女性では、20歳代で最も高く68.5%である。男性では、50歳代で最も高く65.2%である。

図 4-30 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <仕事と生活のバランスの実現>



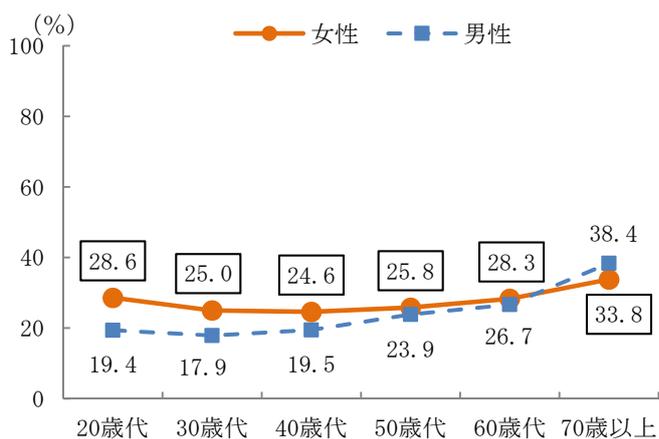
女性では、20歳代が31.4%で最も高いが、そのほかの年代は16.6%～22.8%である。男性では、年代が高いほど高くなり、60歳代はやや低くなるが、70歳以上は43.6%と高く、20歳代と70歳以上では27.5ポイントの差がある。

図 4-31 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応>



男女とも、20歳代で最も低く、特に女性は5.7%と評価はかなり低い。

図 4-32 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <市の女性の健康保持に関する支援>



女性では、70歳以上でやや高いが、年代による大きな違いはみられない。

男性では、年代が高いほど少しずつ高くなる傾向であり、70歳以上では38.4%で、女性の同年代よりも高くなっている。

